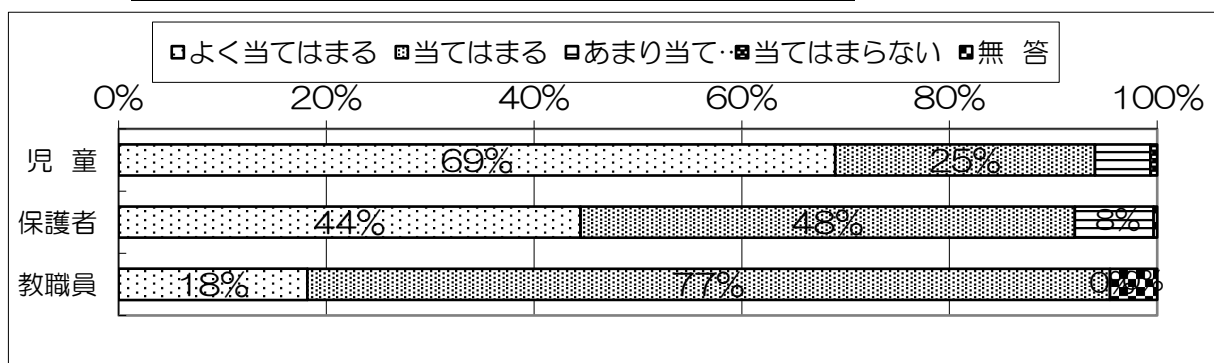


# 令和元年度 本校教育に関するアンケート結果について

栃木市立吹上小学校

## 1 お子さんは、学校に行くのを楽しんでいる。

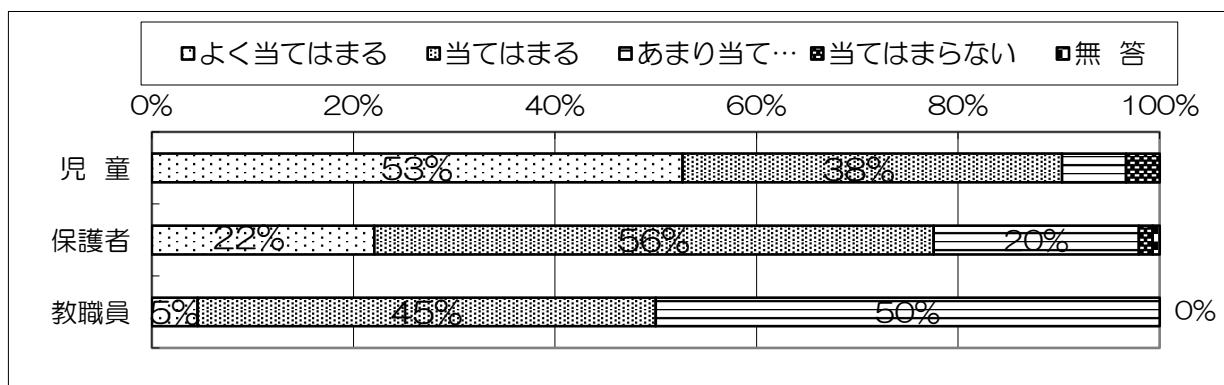
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	69%	25%	5%	1%	0%
保 護 者	44%	48%	8%	0%	0%
教 職 員	18%	77%	0%	0%	5%



児童の94%、保護者の92%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており、多くの児童は楽しく学校に来られているようである。今年度、登校を渋る児童が見られたため、教職員の「よく当てはまる」と答えた割合は13%低下している。しかし、これは児童をよく観察し、現状に満足せずより良い学級づくりをしようとしているものととらえられる。若干名ではあるが、学校が楽しくないと感じている児童、とそれを心配する保護者がいることを忘れず、今後も一人一人に目を向け、児童の心情を汲み取る努力をするとともに、誰もが居がいのある学級経営が必要である。また、今後も教育相談等の充実、児童と保護者の不安や心配を取り除く努力、必要があれば外部機関との連携等を図っていきたい。

## 2 お子さんは、家庭でも地域でもあいさつをしている。

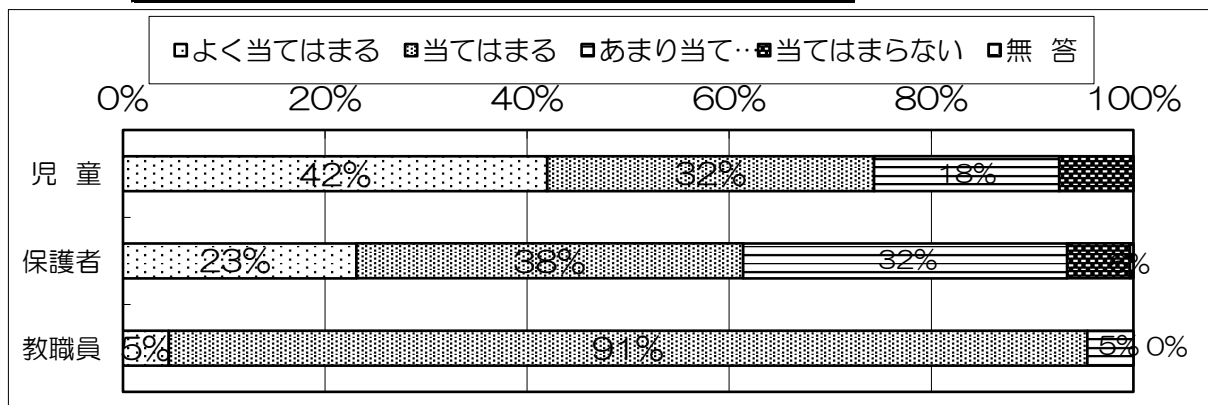
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	53%	38%	6%	3%	0%
保 護 者	22%	56%	20%	1%	1%
教 職 員	5%	45%	50%	0%	0%



児童は昨年度とほぼ同じ91%が「あいさつをしている」と答えている。一方、「あいさつができていない」と答えた保護者は78%、教職員は50%であった。また、今年度も児童と保護者、教職員間で、意識のずれが大きい。教職員は、指導をしながらもなかなか定着せず、まだまだであると感じており、保護者も、「教師がいないとしない。」「自分から大きな声でするのは難しい」と感じているようである。そんな状態を、児童が「できている」と感じていることに問題がある。相手に伝わるよいあいさつについて児童に考えさせ、家庭の協力も仰ぎながら、自分から、進んであいさつができるよう、指導を継続、工夫していきたい。

### 3 お子さんは、家庭で読書に親しんでいる。

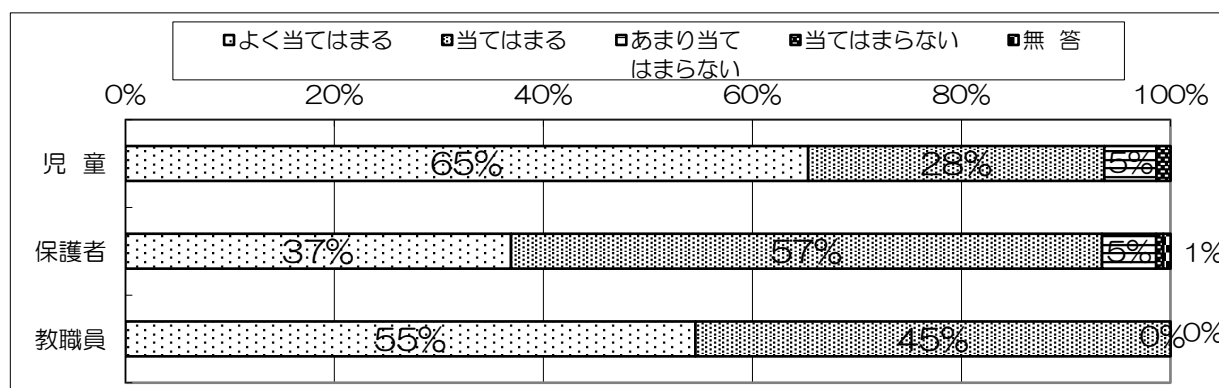
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	42%	32%	18%	7%	0%
保 護 者	23%	38%	32%	6%	0%
教 職 員	5%	91%	5%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は、昨年を11%下回り74%であった。保護者は、62%と高くはないが、昨年度と同程度であった。学校での読書の推進や読み聞かせ、PTAによる図書の実、うちどくの日の設定等の手立てによって96%の職員が肯定的に答えており、手ごたえを感じている。しかし、家庭では、保護者の満足するような主体的な読書までは至っていない様子が伺える。また、個人差が大きいことも課題である。今後も、ボランティアの方の力をお借りし、多様な本に出会う機会を多く設定したり、日常の読書指導を充実させたりすると共に、うちどくの日のさらなる充実を図れるよう家庭に働きかけをしていきたい。

### 4 教職員は、お子さんのトラブルや悩みなどに対応している。

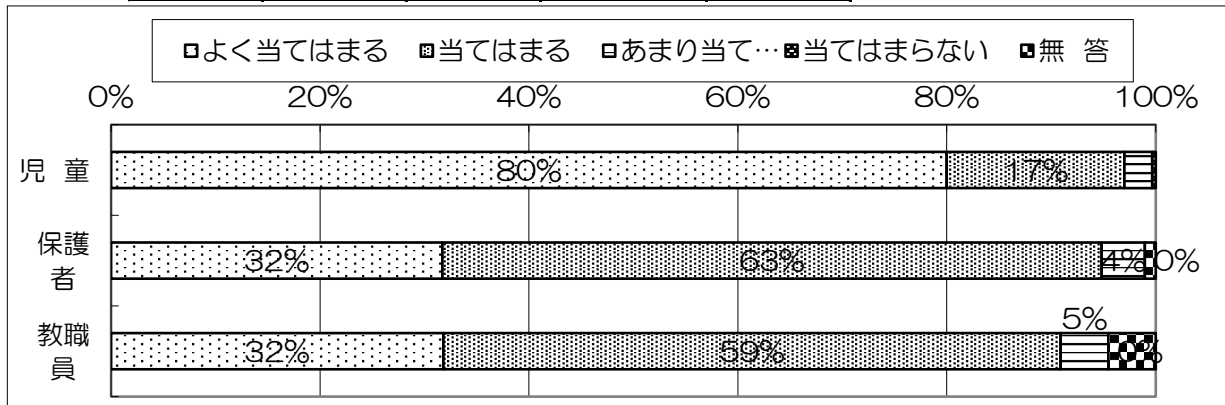
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	65%	28%	5%	1%	0%
保 護 者	37%	57%	5%	1%	1%
教 職 員	55%	45%	0%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童93%、保護者94%で、昨年度とほぼ同じであった。児童の相談やトラブル等への教職員の対応に、児童・保護者共にほぼ満足しているものと思われる。しかし、十分ではないと答えた児童・保護者もいることを忘れず、教職員は、児童の小さな変化を見逃さず、困っている児童・トラブルのある児童等から話を十分に聞き、児童の納得のできる対応を心掛けるとともに、今まで同様、組織として児童指導にあたっていきたい。そして、保護者に対しても、心情に寄り添い丁寧に説明を行っていくことを心掛けたい。

## 5 学校は、分かる授業を工夫し、学力の向上に努めている。

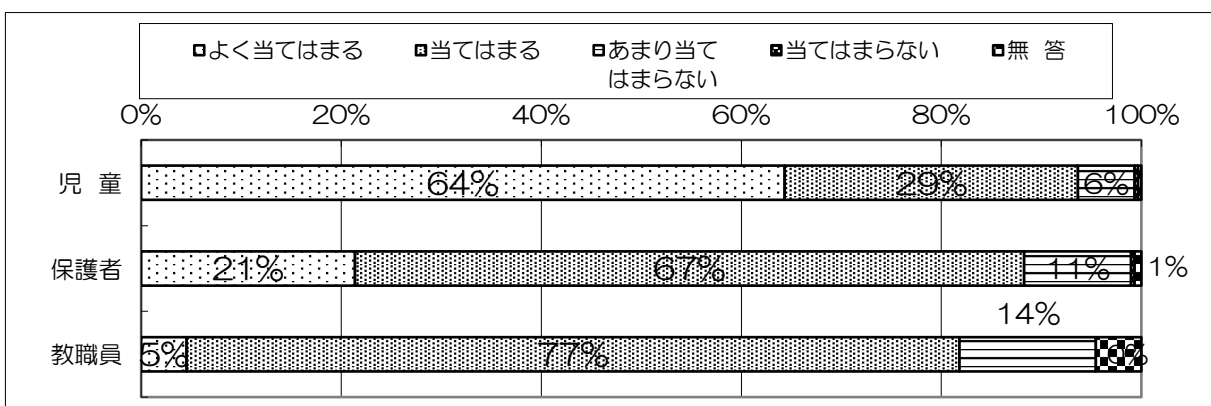
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	80%	17%	3%	0%	0%
保護者	32%	63%	4%	0%	1%
教職員	32%	59%	5%	0%	5%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は97%、保護者は95%と昨年同様高い数値になっている。授業が分かると感じている児童が多く、保護者も、努力している担任や学校の姿勢を評価してくれていることが伺える。しかし、新学習指導要領が全面実施となる来年度に向けて、新しい時代に求められる学力観に沿った、よりよい授業をめざし、教材研究を充実させ、分かる授業、児童が主体的に取り組む授業の展開に努めていきたい。また、集団での学び合いを大切にするとともに、算数の少人数指導や朝のチャレンジタイムなど、個に応じた学習指導の充実にも努め、学力の向上を図ってきたい。

## 6 ★お子さんは、授業中、先生や友達の話をよく聞いたり、考えたりしている

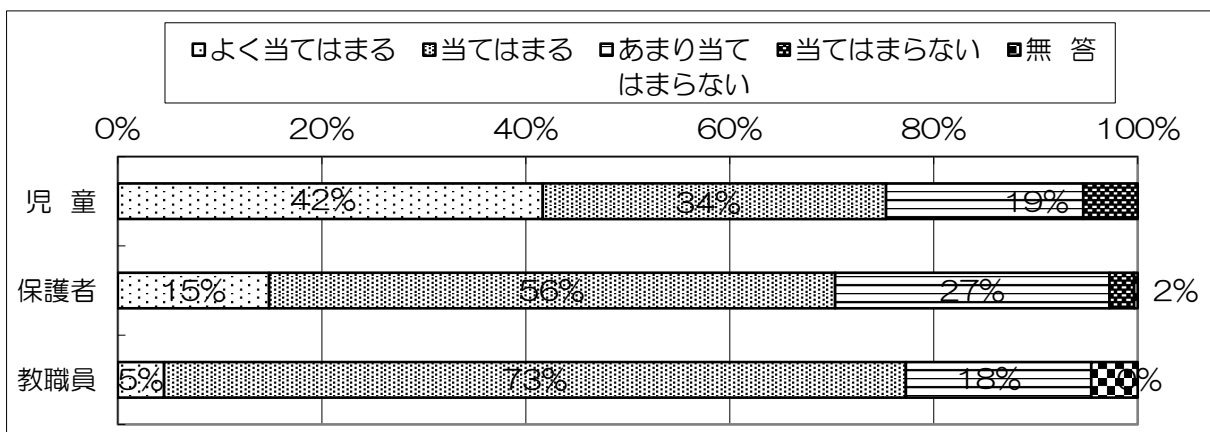
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	64%	29%	6%	0%	0%
保護者	21%	67%	11%	0%	1%
教職員	5%	77%	14%	0%	5%



吹上ブロック小中一貫教育に関わる設問である。「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は昨年同様93%、保護者は88%であった。進んで学習に取り組んでいると考えている児童は多いが、保護者は、十分ではないと感じている方もいることが伺える。職員は83%だが「よく当てはまる」は5%と低く、また「あまり当てはまらない」も14%となっており、まだ不十分と感じている。児童が興味をもって学習に取り組みたいと思えるような教材との出会いや、課題の設定の仕方等を工夫し、学習することの楽しさやできるようになった喜びを味わえるようにすることで、学習への意欲をさらに高められるようにしたい。

## 7 ★お子さんは、授業中、先生や友達に自分の意見や考えを発表している。

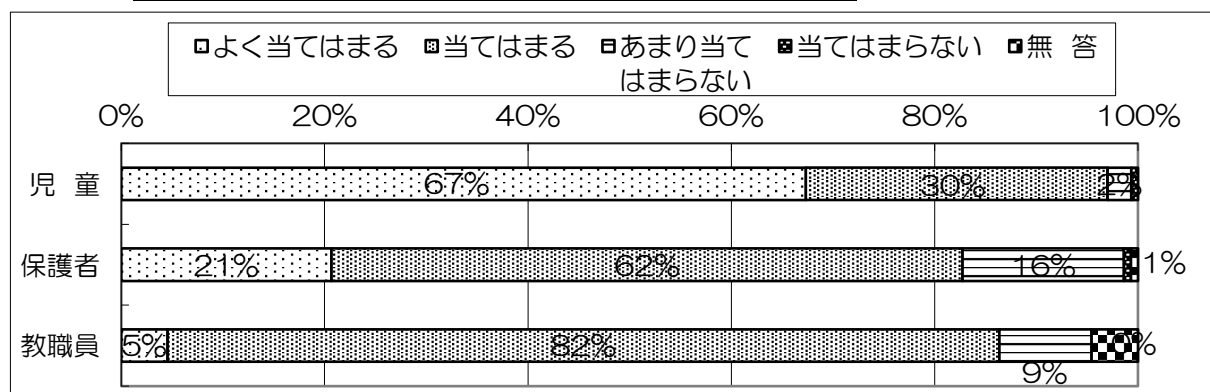
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	42%	34%	19%	5%	0%
保護者	15%	56%	27%	2%	0%
教職員	5%	73%	18%	0%	5%



吹上ブロック小中一貫教育に関わる設問である。「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は76%、保護者は71%であった。授業中自分の考えを伝え合うことが苦手で、できていないと感じている児童が多く、保護者も同じように感じていることが伺える。やや受け身の授業になりがちな実態がある。新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、教師が話し合う必然性のある授業の工夫、ペアやグループ等の小集団での話し合いを取り入れた授業を今後も続けながら、自信をもたせ、自分の考えを進んで伝え、考えを深めていける児童を育てていきたい。

## 8 お子さんは、授業の内容をよく理解している。

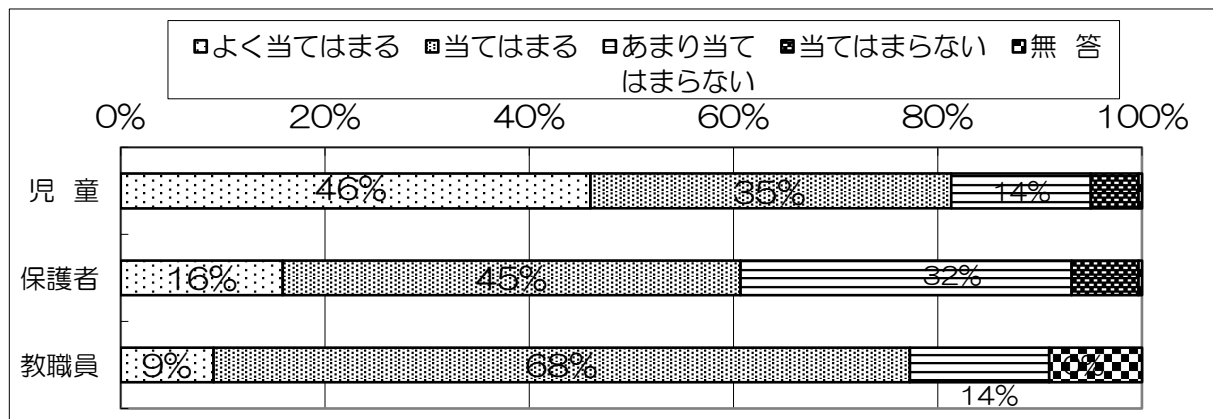
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	67%	30%	2%	1%	0%
保護者	21%	62%	16%	1%	1%
教職員	5%	82%	9%	0%	5%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は97%、保護者は83%であった。児童は学習内容がよく分かると感じ、充実感をもっていることが伺える。しかし、保護者、職員には不安もある状況である。児童と大人で「理解している」とする程度の差があるものと思われる。分かる授業を目指して努力を続け、生きて使える力をつけていきたいと考える。

## 9 お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。

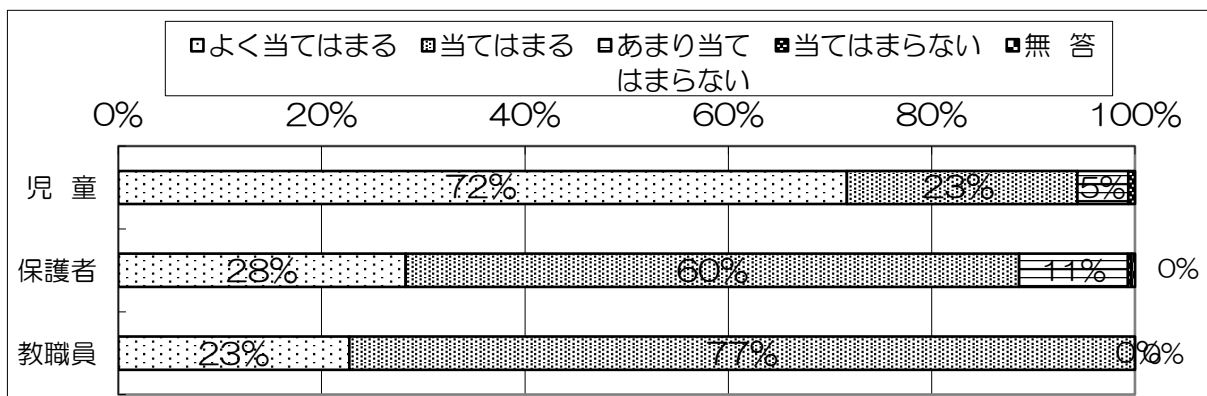
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	46%	35%	14%	5%	0%
保 護 者	16%	45%	32%	7%	0%
教 職 員	9%	68%	14%	0%	9%



「よく当てはまる」と「当てはまる」を合わせた割合は、児童は81%、保護者は61%で、昨年度より5%程度低くなった。また、教職員は77%でこちらも低下している。家庭学習をしていると感じている児童が多く、教職員も家庭学習はある程度習慣化していると感じているが、保護者は、まだまだ十分ではないと考えている方が多い。今後も、「家庭学習のヒント集」などを十分活用し、自主学習の例を示したり、個に応じた助言や指導を行ったりするとともに、家庭学習強調週間を充実させていくことで、家庭学習が習慣化できるようにしていきたい。家庭との連携をこれまで以上に重視し、協力を得ていかなければならない。

## 10 ★お子さんは、互いを思いやり、穏やかな気持ちで生活している。

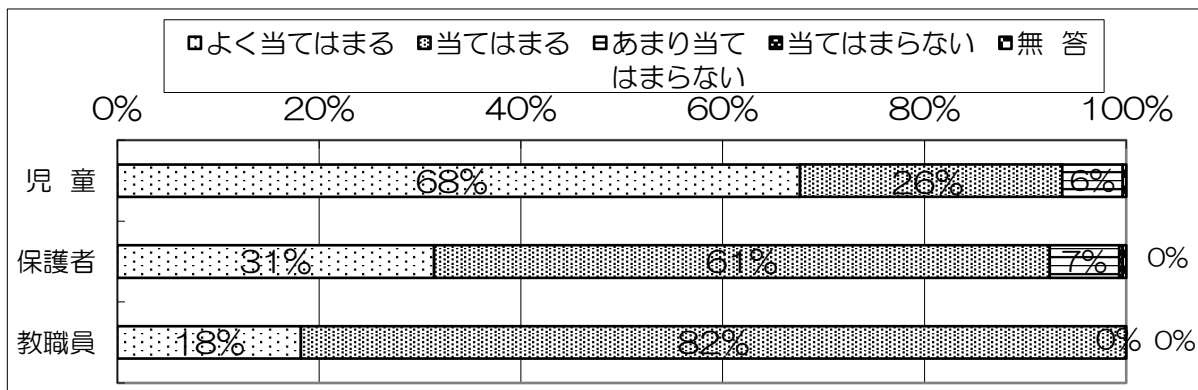
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	72%	23%	5%	1%	0%
保 護 者	28%	60%	11%	0%	0%
教 職 員	23%	77%	0%	0%	0%



吹上ブロック小中一貫教育に関わる設問である。児童の95%・保護者の88%が、「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており、おおむね望ましい結果となった。道徳科を要として、学校生活全般を通して協力や思いやりの指導を充実させるとともに、人権週間での様々な啓発活動、清掃や特別活動で異年齢集団活動等相手を思いやる気持ちを育てる活動を多く取り入れている成果と考えられる。今後も、児童相互の関わり、教師と児童との関わりを多くし、互いに思いやり助け合えるような場を設定していきたい。

## 11 ★お子さんは、友達のよさや努力を互いに認め合っている。

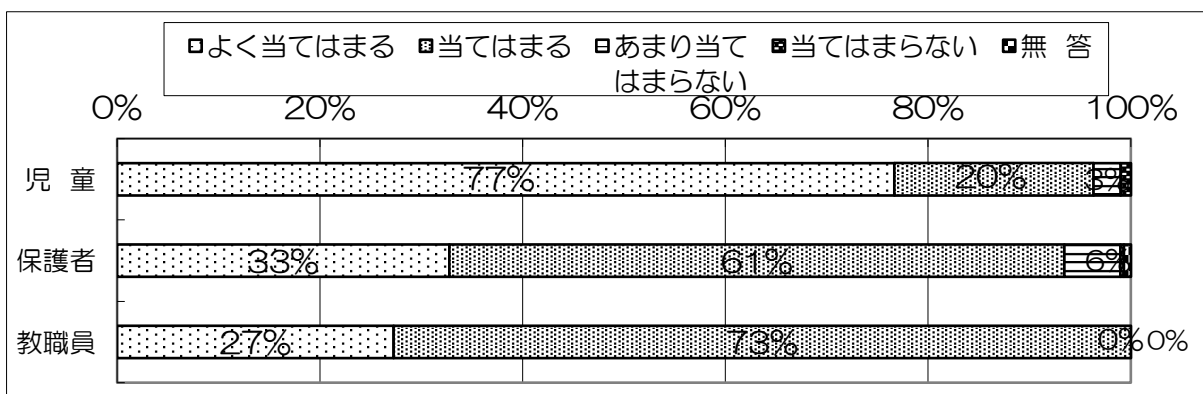
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	68%	26%	6%	0%	0%
保護者	31%	61%	7%	0%	0%
教職員	18%	82%	0%	0%	0%



吹上ブロック小中一貫教育に関わる設問である。児童の94%、保護者の92%、職員の100%が「よく当てはまる」「当てはまる」と望ましい結果であった。各学級での朝の会や帰りの会での互いのよさを認め合う活動等、学級経営の工夫や児童会活動等の特別活動の工夫の成果と考えられる。今後も本校児童のよさとして継続できるよう努めていきたい。

## 12 学校は、安全教育を充実し、交通安全の意識や態度を育てている。

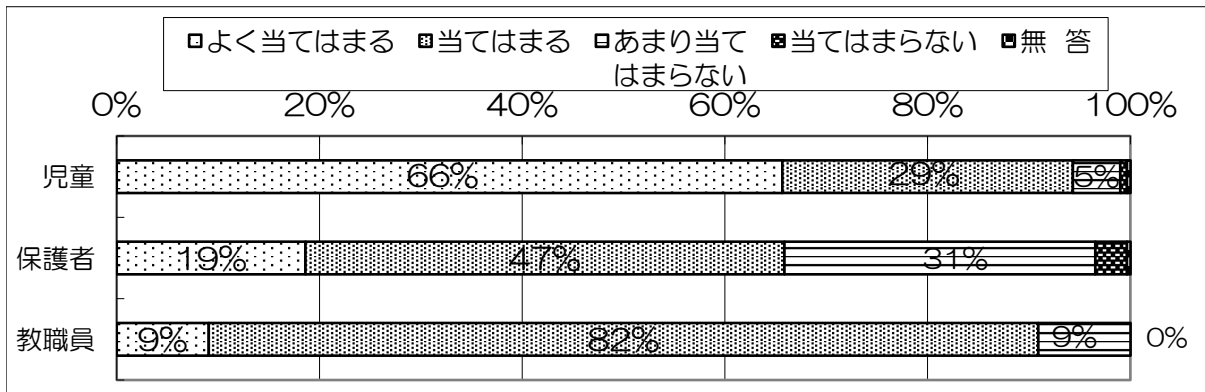
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	77%	20%	3%	1%	0%
保護者	33%	61%	6%	0%	1%
教職員	27%	73%	0%	0%	0%



昨年同様児童の97%・昨年を上回る保護者94%、教職員100%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えている。大変よい結果であるが、保護者の記述の中には、安全教育が十分ではなく不安である等の声が上がっている。下校の様子からは、やや安全意識の低さを感じる場面もあった。自分の命は自分たちで守るという意識をもって行動できるような指導を、繰り返し行っていく必要がある。そして、立哨ボランティアや安全パトロール隊等地域の方々と協力し、児童の安全を見守っていきたい。

### 13 お子さんは、家庭で進んでお手伝いをしている。

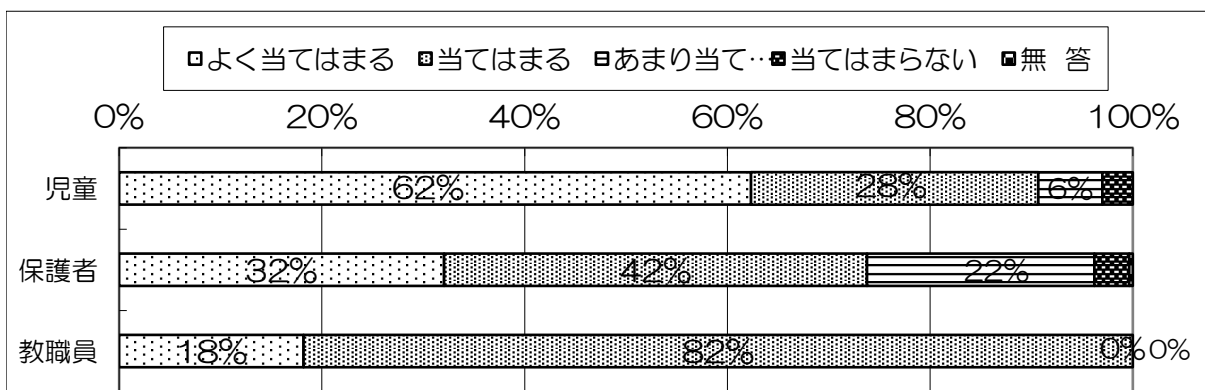
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児童	66%	29%	5%	1%	0%
保護者	19%	47%	31%	3%	0%
教職員	9%	82%	9%	0%	0%



児童は95%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えているが、保護者は66%にとどまっている。職員は91%であることから、学校では清掃や係の仕事等よくできるが、家庭では十分でないものと考えられる。家族の一員として、発達段階に応じた仕事を与え、家族の一員として家事をすること、働くことの大切さを感じさせてほしいことを懇談会の折に話題にしたり、学年だより等を通して伝えるなどの手立てが必要である。生活科や家庭科の時間等に、家庭での実践の場を作り、家族のために働くよさに気付かせていくとともに、PTAとさらに連携を図り、家庭で働く場を増やしていきたい。

### 14 お子さんは、進んで運動し、体力をつけようとしている。

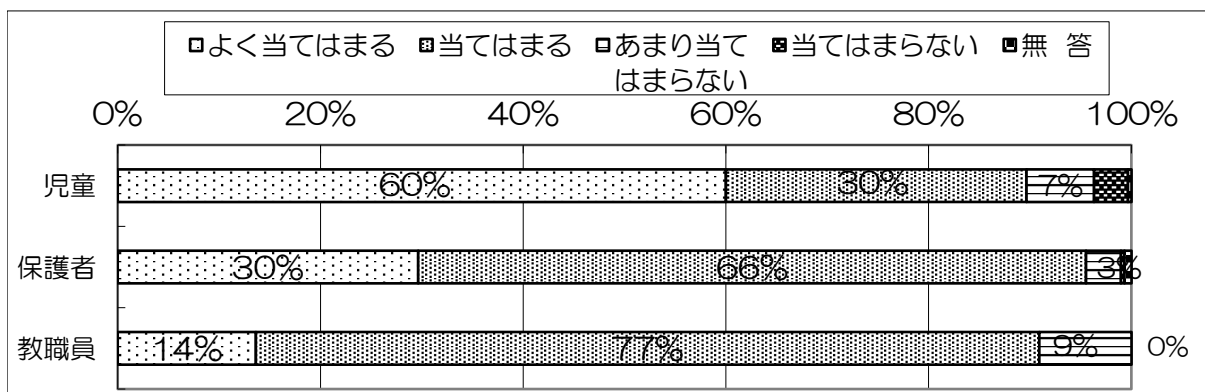
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児童	62%	28%	6%	3%	0%
保護者	32%	42%	22%	3%	0%
教職員	18%	82%	0%	0%	0%



児童の90%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えていて、運動しているという意識は高いと考えられる。しかし、保護者は74%に留まっている。児童と保護者の意識の差が大きい。家庭では、進んで運動する児童がいる反面、あまり運動を好まない児童も少なからず見られる2極化が進んでいることが考えられる。能力・好み等個人差が大きいので、学校教育全体の中で、体を動かす楽しさを重視し生涯スポーツにつなげると共に、自分に合った目標をもたせ、継続して運動に取り組み体力の向上を図れるよう、指導を工夫していきたい。

## 15 学校は、積極的に食育を推進している。

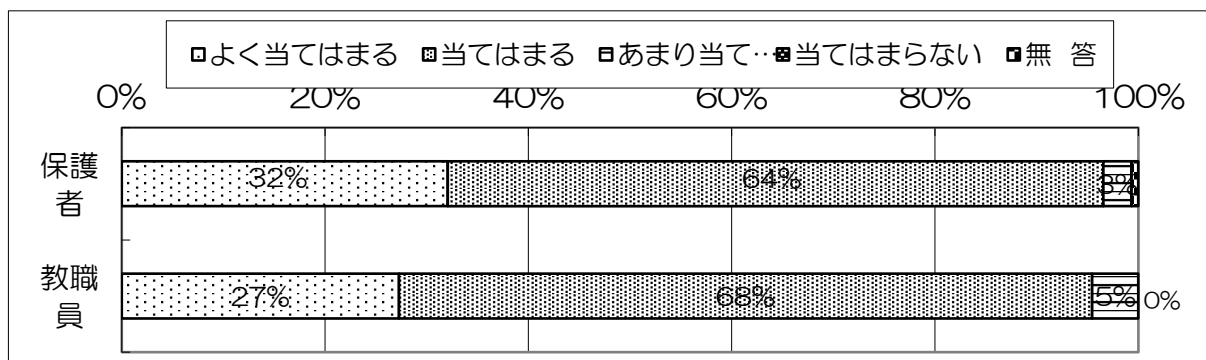
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児童	60%	30%	7%	3%	0%
保護者	30%	66%	3%	0%	1%
教職員	14%	77%	9%	0%	0%



児童の90%、保護者の96%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えている。生活科で作物を育てたり、給食時に担任のない職員が各クラスに入って一緒に給食を食べたりしていることや学校栄養士、養護教諭による指導が、児童の食育に良い影響を与えており、保護者にも伝わっていることが伺える。来年度は、農園の利用ができないが、花壇等を計画的に活用できるよう準備していく必要がある。

## 16 学校の教育方針や取組を各便りや懇談会等で分かりやすく伝えている。

	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
保護者	32%	64%	3%	0%	1%
教職員	27%	68%	5%	0%	0%

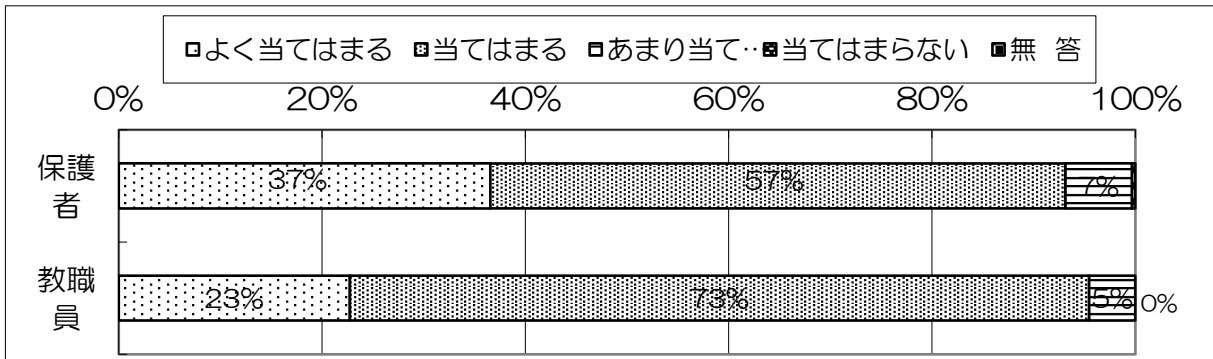


昨年とほぼ同様、保護者の96%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えている。学校だよりや学年だよりに加え、ホームページでの情報公開も積極的に進めてきており、閲覧数も伸びている。来年度も、たよりやホームページ等いろいろな方法で、学校の様々な教育活動の様子を分かりやすくお伝えし、より多くの方々に、本校の教育についての理解を深めていただけるようにしたい。教職員が直接保護者と話すことができる懇談会や教育相談等、数少ない機会を有効に利用していきたい。



### 17 学校行事やファミリー参観、授業参観などの時期や回数は適当である。

	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
保護者	37%	57%	7%	0%	0%
教職員	23%	73%	5%	0%	0%



94%の保護者の方が「適当である」と答えている。今の行事や授業参観等のもち方に、多くの方は満足していただいていると考えられる。ただ、共働きの保護者の方が増えている現状もあり、行事が集中するとたいへんであるという声もあった。来年度も、今の回数を基本として開催時期が集中しないように配慮するとともに、早めの連絡を心掛け、より多くの方が参加できる形態等を工夫していきたい。